

ACCESSIBLE DESIGN

The Periodical of

アクセシブルデザインの総合情報誌 インクル No. 67

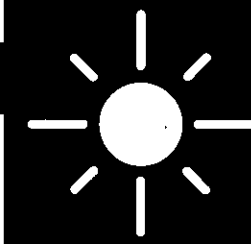
2010 (平成22) 年7月25日

No. 67

"Incl." by The Accessible Design Foundation of Japan (The Kyoyo-Hin Foundation)
共生社会の実現を願う妖精「インクル」。「包括的教育理念」を意味する英語「インクルージョン」から名付けました。

目次 / contents

- 2008年度共用品市場規模調査
成長持続、前年比3.1%増の3兆3402億円に
今年度調査、対象品目や配慮点を見直し (凌竜也) 2
- 企業のための「視覚障害者向け情報提供」ガイダンス
専門サービスの活用で、多彩な情報発信を! (高嶋健夫) 6
- 国立科学博物館の「2010夏休みサイエンススクエア」
「触って分かる絵を作ってみよう!」
機構、8月13~15日に子供たちのためのワークショップ開催 (高嶋健夫) 7
- <随想 私と共用品> 第45回
公共トイレのJIS、出違い+気づき=標準化 (竜口隆三) 8
- <ニュース&トピックス>
㈱カタログハウス、ロッキング座椅子「ゆり座」発売/経済産業省、障害者・
高齢者配慮設計、住宅用窓・ドアの技術仕様書 (TS) 発行 (高嶋健夫) 9
- <キーワードで考える共用品講座> 第64講
共用と社会 (その2: 環境) (後藤芳一) 10
- <事務局長だより> 「大きな宿題」をいただく喜び (星川安之)
共用品通信 11
- <わが社のエース> ㈱日立メディコ デジタル超音波診断装置「HI VISION Preirus (プレイラス)」
医師・技師にも、患者・被験者にも優しいデザインに (高嶋健夫)
奥付 12



■「コミュニケーション支援用絵記号デザイン原則 (JIS T0103)」に収録されている絵記号例。左から「椅子」「晴れ・太陽」「病院」(共用品推進機構ホームページから無償ダウンロードできます)

財団法人 共用品推進機構

2008年度共用品市場規模調査 成長持続、前年比3.1%増の3兆3402億円に 今年度調査、対象品目や配慮点を見直し

しのぎ たつや
凌 竜也・(株)日本能率協会総合研究所ヘルスケア研究部主任研究員

【財共用品推進機構がまとめた2008年度（2009年3月末時点）の共用品の市場規模調査によると、国内市場規模は前年比約3.1%増の3兆3402億円と推計され、引き続き堅調な伸びを示した。デジタル放送対応の薄型テレビ、ブルーレイディスク（BD）対応機などの録画再生機といった映像機器が堅調だったほか、家電製品が大幅に伸びたことが主因。出荷額が順調に増加し、調査品目全般にアクセシブルデザイン配慮が普及・定着する中で、共用品のさらなる普及に向けて、機構では今年度、対象品目や配慮点を見直し、新たな形の調査を行う計画である。

本調査は、共用品の市場動向を定点的に把握する国内唯一の調査として行われており、今回で13回目（調査データとしては14年度目）を迎える。

調査対象は、前回同様28の品目の国内出荷額とし、調査方法は共用品製造企業に対するアンケート調査を中心に、一部品目については業界団体の協力も得て実施した。アンケートの配布・回収状況は図表1に示すとおりである。また対象品目における、（共用品以外を含む）市場全体の規模や趨勢を把握するため、各種の文献調査、電話などによるヒアリング調査も実施した。なお、具体的な調査対象品目と配慮点の一覧は、調査結果と合わせて図表3に示されているとおりである。

「映像機器」、引き続き1兆円超を維持

2008年度の共用品市場規模は、3兆3402億

■図表1 アンケート調査の配布・回収状況

調査種別	調査対象	配布数	回収数	回収率
個別企業調査	—	166社	69社	41.6%
業界団体調査	家電製品協会	16社	12社	75.0%
	日本照明器具工業会	14社	14社	100.0%
	日本玩具協会	20社	9社	45.0%
	ビール酒造組合	5社	3社	60.0%
合計	—	221社	107社	48.4%

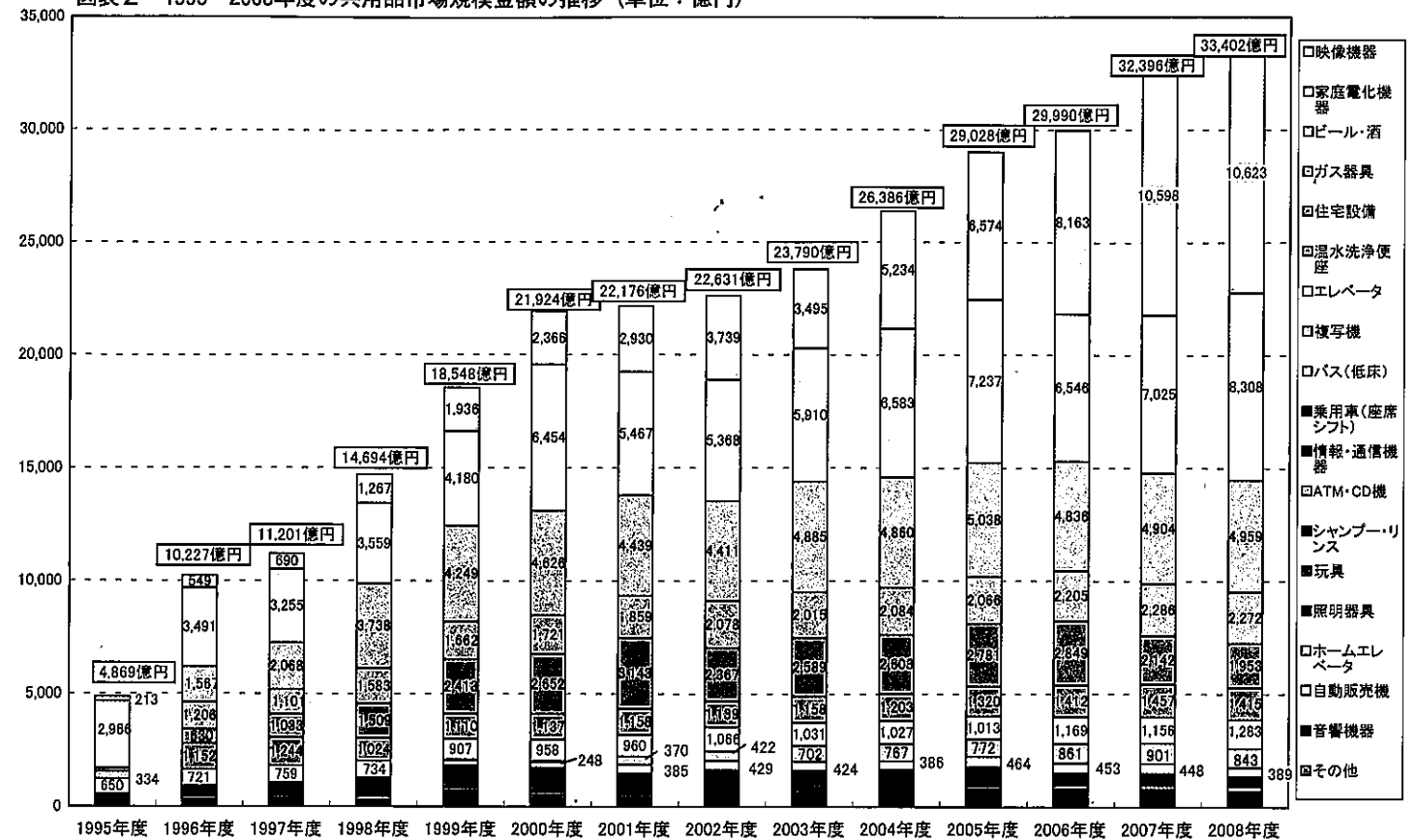
円と推計され、前年比で約3.1%（1006億円）の増加となり、今回も全体金額では順調な伸びを見せた（図表2）。全体金額の伸長の背景には、映像機器をはじめとする主要品目の着実な増加がある。

前回調査で1兆円を突破し、現在では全体金額の約3分の1を占めている「映像機器」の出荷額は、1兆623億円と、前回とほぼ同じ水準（0.2%、25億円増）を維持した。主力のプラズマテレビや液晶テレビは、価格競争の激化と経済危機で販売額の伸びは鈍化したものの、北京オリンピックや地上デジタル放送への買い換え需要を背景に出荷台数は増加した。録再機では、前年に規格争いに決着のついたブルーレイディスク（BD）録再機の数量が大幅に伸び、旧世代のDVDにおいてもBD対応型の機種が台数を伸ばすなど、全体出荷額を堅持するのに貢献した。

「家庭電化機器」が18.3%の高い伸び

「家庭電化機器」は8308億円と、前年比18.3%増、金額にして1283億円増となり、映像機器以上の伸びとなった。ルームエアコンが猛暑で売り上げを伸ばしたのをはじめ、冷蔵庫で大型機種シェアが伸びたこともあり、出荷額が増加した。これらの動きが反映され

図表2 1995～2008年度の共用品市場規模金額の推移（単位：億円）



て、共用品出荷額の伸びにつながったと考えられる。

一方、「ビール・酒」の分野は4959億円（前年比1.1%、55億円増）とほぼ横ばいで推移した。ビール系飲料では、ビール、発泡酒が出荷数量を減らし、第3ジャンルが伸びる構造が続いており、ビール系全体では出荷数量がやや減少したが、チューハイを含む低アルコール飲料などの出荷額が増えたことが、出荷額の維持につながった。

このほか、住宅設備は、今回調査でも1953億円（8.8%、189億円減）と昨年同様減少した。照明器具も同様に94億円（6.0%、6億円減）と、新設住宅市場のマイナス影響が2008年度も続いている。

二極化進む品目別の「共用品普及度」

調査対象品目の中で、製品本体の一部機能に共用化配慮が取り入れられている品目について、その品目の全体出荷額との比較の視点

から、製品別の「共用品普及度（全体出荷額に占める共用品出荷額の割合（%）」を試算した結果が図表4である。これによると、「ガス器具」「映像機器」で普及度が50%を超えているのが目立つ。「家庭電化機器」の普及度は、これらの2品目を下回るが、多様な品目で構成されている中での数値であり、同様に普及が進んでいる代表品目といえよう。一方で1%を下回る品目もあるなど、集計した品目の範囲では二極化している傾向もうかがえる。

ただし、ここで注意すべきは、普及度の高低比較から業界の取り組みの積極性を評価するのは適切ではないという点である。重要なのは、数値それ自体や他品目と比較した順位というよりは、その数値を出発点にその背景を解釈する中で、それぞれの品目・分野別の課題を発掘し、解決することである。

例えば、普及度が高い水準の品目については、より高度な配慮点を見つけることが課題

企業のための「視覚障害者向け情報提供」ガイダンス 専門サービスの活用で、多彩な情報発信を！

多機能携帯端末（スマートフォン）の普及、米国アップル社の「iPad（アイパッド）」の発売など、情報のデジタル化が加速する中で、視覚障害者の間では「このままでは取り残されてしまう」というデジタルデバイド（情報格差）の拡大に対する危機感が広がっている。特に企業に対しては、新製品情報など生活に密着した情報提供活動の充実を求める声が多い。そこで、企業が利用できる専門機関の情報関連サービスの現状を探った。（高嶋健夫）

企業が視覚障害者に情報提供する手段として、大きく2つのアプローチが考えられる。1つは、PR誌や商品カタログ、新製品のパンフレットなど自社販促物の点字版、音声版を独自に製作し、必要とする人に配布する方法。もう1つは、既存の視覚障害者向けの情報媒体に新製品情報をニュースとして提供したり、広告を出稿したりする方法だ。

専門機関の点字・音声製作サービス

前者については、別表のように、日本点字図書館（日点）、日本盲人会連合（日盲連）、

日本ライトハウスなどの福祉機関が点字や音声媒体の受託製作サービスを手掛けている。例えば、日本ライトハウスでは音声に文字テキストや画像を同期させることのできる最新の「マルチメディアDAISY（デージー）」に対応するコンテンツの製作も推進している。

それぞれの窓口にご相談すれば、内容や製作部数などによって見積もりも出してくれる。

民間企業でも、同様の製作サービスを提供しているところがある。例えば、『点字毎日』を発行する毎日新聞社でも点字の受託製作を行っている。弱視の人のためのラージプリントの書籍を出版している大活字やユニバーサルデザイン印刷のブライトは、読みやすい印刷物の製作を請け負っている。

後者については、『点字毎日』以外にも、広報媒体として活用可能なさまざまな情報媒体がある。代表例が、日盲連が発行している『点字JBニュース』『点字日本』『点字厚生』などの多様な媒体。例えば『点字JBニュース』は月曜から金曜まで最新の新聞情報などを点字、音声、データで提供している。

■視覚障害者向けの主な情報サービス提供機関・企業

機関・企業名	サービス内容	問い合わせ先
社会福祉法人 日本点字図書館	広報誌、商品カタログなどの点字化・音声化サービスを請け負う。	点字製作課（TEL：03-3209-0671） 録音製作課（TEL：03-3209-0242）
社会福祉法人 日本盲人会連合	『点字JBニュース』など、さまざまな点字・音声情報サービスを提供。	TEL：03-3200-0011（代）
社会福祉法人 日本ライトハウス	商品カタログなどの点字化・音声化を受託。	メディア製作センター（TEL：06-6441-1019）
毎日新聞社	点字版の週刊新聞『点字毎日』を発行。墨字版、音声版もある。点字製作も受託。	点字毎日（TEL：06-6346-8388）
（株）大活字	弱視の人にもみやすい大活字本を出版する。各種印刷物の製作受託も行う。	TEL：03-3259-2200
（株）オトバンク	音声コンテンツ制作・配信サービスを事業化。音声コンテンツの収録代行事業も手がける。	TEL：03-3556-4266
（株）ブライト	ユニバーサルデザインの専門印刷会社。表記、表現方法までを総合的にデザイン。	TEL：03-5259-8833

（注）内容は各機関・企業のホームページによる

国立科学博物館の「2010夏休みサイエンススクエア」 「触って分かる絵を作ってみよう！」 機構、8月13～15日に子供たちのためのワークショップ開催

（助）共用品推進機構は8月13～15日の3日間、東京・上野の国立科学博物館が主催する「2010夏休みサイエンススクエア～科学と遊ぶ夏休み！」で、ワークショップを開催する。科博イベントでのワークショップ開催は3年連続となる。

テーマは「触って分かる絵を作ってみよう」。昨年と同様に、レーズライター（表面作図器）を使って、恐竜や植物、果物などのイラストを「触って分かる絵」に仕上げてもらおうという内容。そうした作業を通して、子どもたち

や保護者の方に、目の見えない人の不便さや共用品の配慮などについても学んでもらうことを目的としている。

開催場所は、科博内の日本館1階企画展示室の「F会場」。開催時間は連日午前10時～、11時～、午後12時30分～、2時30分～の4回開催。所要時間は約30分。

各回の定員は10人で、参加希望者は当日会場で申し込む。機構では、親子連れをはじめ多数の参加を期待している。

（高嶋健夫）

注目されるのが、今年4月に本格運用が始まった、視覚障害者のための新しいインターネットサービス「サピエ」。この中で提供される「地域・生活情報」は全国各地の地域情報を発信するもので、「企業が情報提供施設を通じて、情報発信に活用することは十分に可能と思われる」（田中徹二・日本点字図書館理事長）という。

ちなみに、「サピエ」の最大の注目機能は、全国100以上の視覚障害者向けの情報提供施設（点字図書館、公共図書館、ボランティア団体など）をネットワーク化した「サピエ図書館」で、日点がシステムを管理し、全国視覚障害者情報提供施設協会が運営を行う。これは、いわば“オンライン点字・音声訳図書館サービス”。これまで各地の点字図書館がバラバラに行っていた点字図書や音声データの貸し出し・提供サービスを一元化し、パソコンで自由に点字・音声（デージー）データをダウンロードできるようにした。「視覚障害者にとっても情報のIT化は大きな流れになっており、サピエはその中心に位置付けら

れる新サービス」（木塚泰弘・日本ライトハウス理事長）との期待が高まっている。

「QRコード+携帯電話」による情報提供も

視覚障害者への情報提供の取り組みとしては、日本玩具協会（ウェブサイトからの「共遊玩具カタログ」の点字データ提供）、ソニー（ウェブサイトからの「聞くカタログ」の音声データ提供）、花王（生活情報の音声CDの無償配布）、ライオン（音声情報「音メール」の配信）、オリエンタルランド（東京ディズニーリゾートの音声CD、携帯版触知図の無料提供）などの事例がある。

このほかにも、最近では「QRコードを音声読み上げ機能付きの携帯電話に取り込み、文字情報をケータイで聞くという方法も広がっている」（鈴木孝幸・日盲連情報部長）という。企業側の創意と努力次第でまだまだ情報提供の幅を広げる余地がありそうで、CSR（企業の社会的責任）活動の真価が問われていると言えそうだ。

公共トイレのJIS、出逢い+気づき=標準化

たつぐちりゅうぞう
竜口隆三 (西日本工業大学デザイン学部教授・博士 [人間環境デザイン学])

私がTOTOに勤務していた7年ほど前に、東京大学先端科学技術研究センターの福島智教授の講演会に参加した。福島教授は全盲ろうで、全く目が見えず全く耳が聞こえない。講演はほとんどがトイレに関する話で、それも視覚障害者側から見たトイレに対する苦情が大半だった。

視覚障害の方がどのようにトイレを使用するかご存知だろうか。どんなに用を足したくても、便器洗浄の方法が分からなければ、絶対に用を足さないという。そのため福島教授は、大便器ブースに入ったらドア面以外の三壁面を全て触り、紙巻器や洗浄ボタンはどこか、どのような器具がどの位置に設置されているかを確認して、やっと用を足すのだそうだ。

福島智さんが教えてくれたこと

さらに驚いたのは、「壁面すべてを触っても洗浄装置が見当たらなかったら、汚いと思うかもしれないが、床に膝をついて床面に便器洗浄用の足踏みボタンがないか手で触ってみる」とのことであった。そんなことまでさせていたと気づかされ、涙がこみ上げてきた。トイレ機器のメーカーにいながら、なぜ不特定多数の人が利用する公共トイレのルールづくりに取り組まなかったのかと、悔しくなったことを今でも忘れない。

講演の後、福島教授と話し合い、洗浄ボタンなどの配置について「ぜひルールを作ろう」と意気投合したが、会社全体を巻き込まなければルール化は無理と判断し、福島先生にTOTOの経営会議に出席いただき、直接経営陣に問題点を訴えてもらい、TOTOが先頭に立って「操作系設備機器の配置のルール化」を全面的に推進するとの確約を得たのだ。

そこから標準化を目指し、高橋儀平東洋大学教授の研究室と共同研究を始めたが、国内共通のルールとするために同業他社にも参加

を求め、一緒にプロジェクトを進めた。さまざまな障害当事者の方々の協力を得てユーザー検証を行った結果、紙巻器を基点に、真上に洗浄ボタン、その横に呼出ボタンという「L字型配置」が一番操作しやすいと分かった。

国土交通省は早速、建築工事設計詳細図面集にこの配置を掲載した。経済産業省もこのルールを異例の短期間で、平成19(2007)年に日本工業規格(JIS)に制定した。このとき、共用品推進機構の積極的なバックアップがなければJIS化は難しかったのでは、と感じる。機構をはじめJIS検討委員会のみんなが、その必要性を強く感じ、「ひとにやさしいところ」を持って前向きに検討した賜物と感謝している。

大切なのは「ひとにやさしいところを持つ」

私は福島先生との出逢いをきっかけに「ひとにやさしいところを持つ」と周囲に訴え始めた。最初は自分に言い聞かせた言葉であるが、やはりユニバーサルデザインの原点は「ひとにやさしいところ」「ひとを思いやる気持ち」であり、それなくして、ユニバーサルデザインのモノづくり・環境づくりができるとは思えない。私は今大学でユニバーサルデザインをメインに指導しているが、学生たちに求めているものはただ1つ、それは「ひとにやさしいところ」を持つことであり、今の日本人に一番欠けているものだと思う。

バリアフリーだ、ユニバーサルデザインだと叫ばれる昨今であるが、一番大切なのは「このユニバーサルデザイン=ひとにやさしいところを持つこと」であると思う。(題字は中野奈津美・財共用品推進機構運営委員)



●ニュース&トピックス

財カタログハウス

座いす式ロッキングチェア「ゆり座」を発売 光野有次氏が設計、「かに座」に続く第2弾

大手通販誌『通販生活』を発行する(株)カタログハウスは、体を前後に揺らすことができるロッキング座椅子「ゆり座」=写真=を発売した。設計したのは、(財)共用品推進機構理事で、車いすやバリアフリー家具・インテリアの設計で知られる工業デザイナーの光野有次さん(バンテラ・ジャパン代表)。「通販生活」の座いすではロングセラー商品となっている「かに座」に続く第2弾となる。

最大の特徴は、特許出願している独自開発の“ロッキングによるチルト・リクライニング機能”を採用したこと。これにより、使用者は背骨のS字形状に合わせて、バックレストを最も楽な姿勢に保てるようになっているという。リクライニングはガスシリンダー式で、無段階で調節可能。アームレストの下にあるレバーを握りながらバックレストに体重

を預けて、好みの位置で止める仕組みになっている。ヘッドレスト(枕部)の位置も好みで変えられる。レバーは右利き用、左利き用の2タイプ。適応身長は145~180cm。

本体サイズは、幅66×奥行68×高さ92cm、座面は幅58×奥行38×高さ16cm。重さは約12kg。価格は4万7250円(送料1000円)。「通販生活」今年夏号などに掲載されているほか、同ウェブサイトからも注文できる。

(高嶋健夫)

■通販生活HP

<http://www.cataloghouse.co.jp/>



●ニュース&トピックス

経済産業省

「住宅用窓・ドア」に関する技術仕様書(TS)が発行 高齢者・障害者にも使いやすい窓・ドアの“チェックリスト”

障害のある人や高齢者でも安全に、かつ開閉しやすい住宅用の窓・ドアに関する日本工業規格(JIS)の技術仕様書(TS)が発行した。タイトルは「高齢者・障害者配慮設計指針—住宅用ドア及び窓—建具金物(TS A0027:2010、Guidelines for older persons and persons with disabilities — Housing doors and windows — Metal fittings)」で、5月20日に公示された。

日本工業標準調査会(JISC)の委嘱によって、(社)日本サッシ協会が原案作成団体となって審議を進めていたもの。障害者や高齢者に配慮すべき窓種の選定や金物の要求性能を拾い出し、住宅設計やサッシ建具の商品開発段階で留意すべき基本性能などについて検

討する際に活用できる「チェックリスト」を提供する内容となっている。

日本サッシ協会では2006~08年度の3年間、経済産業省の委託事業として、窓・ドアの安心・安全に関する調査研究を行い、その成果をベースに昨年度、TS発行に向けた審議を進めていた(同協会の取り組みについては、本誌第53号を参照)。

同TSの全文は、日本規格協会(JSA)ウェブサイトから有料でダウンロードできる。(高嶋健夫)

■日本規格協会HP(JSA Web Store)

<http://www.webstore.jsa.or.jp/webstore/top/index.jsp>

「共用と社会 (その2: 環境)」

後藤芳一 (財共用品推進機構運営委員、日本福祉大学客員教授)

広い視点で眺めると、共用品③⑥⑩⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
 ~③ (小さい添え字①~②の考え方は、社会や自然のなかに、相通じるものが見つかる。ここでは、リスクという視点から見た環境問題に注目する。

1. 大きい流れ

環境③には、媒体の汚染 (大気、水などの汚染によるヒトや生物への影響)、生態系⑥の安定・維持 (生物とそれを取りまく自然が互いに依存して持続)、資源・エネルギーの循環や代謝 -- などの側面がある。

そのうち、環境からヒトや生物が受ける影響の大きさを測るには、「環境リスク」という尺度がある。環境リスクは、ばく露量 (例: 化学物質に生物が触れる量) と有害性 (例: 化学物質ごとの固有の毒性) をかけ合わせて表される。

大きい流れは、公害問題などが生じ、その対策が進むと、地球環境問題のような課題が注目されるようになった。リスク論的には、「局所的な影響が大きく、影響を受ける人数は比較的限られる問題」から、時間の経過とともに「被害の重さは限られながら、影響を受ける人数の広がり大きい課題」が注目されるようになった。

2. 個人に大きい影響・少人数

産業発展とともに、主に1950~70年代に、いわゆる4大公害病 (水俣病、新潟水俣病、四日市ぜんそく、イタイイタイ病) などの「公害」が注目されるようになった。公害は、1人ひとりに与える影響が重い半面、影響を受ける人数は数百~数千人 (認定の仕方ではその数倍) であった。その対応策として、公害対策基本法 (1967年)、大気汚染防止法 (68年)、いおう酸化物質環境基準 (69年、以後環境基準は各種制定)、廃棄物処理法 (70年)、水質汚濁防止法 (70年) など「規制」による対策が講じられた。それによって、各種の環境汚染は改善した。

3. 個人に小さい影響・大人数

「環境と開発に関する国連会議 (リオサミット) (1992年) を契機として、持続的な開発に向けた地球規模での取り組みが提唱され、化学物質、生物多様性⑮などとともに、気候変動問題が注目されるようになった。気候変動枠組条約が同サミットで採択され、94年に発効。その後、同条約の締約国による会合 (COP) を通じて、温室効果ガスの排出量を目標水準まで削減することをめざしている。

気候変動問題は環境リスクという点では、個人には影響は大きくないものの、影響を受ける人数が多い (温暖化の影響は、地球全体が影響を受ける) という性格がある。

4. 環境リスクと共用品

環境リスクを低減させた流れは、暮らしの不便さ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿の問題にも通じるころがある。日本の戦後では、初めは傷痍軍人や周産期などの障害③⑥⑩⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿を対象とした障害者政策による対応が中心であった (義肢・装具、車いす、座位保持装置、補聴器などの補装具を中心とした障害系の福祉用具③⑥⑩⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿で対応)。その後、事情が改善する一方、人口の高齢化①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿が進んで、介護①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿を中心とする高齢者対応の要請が増した (介護ベッド、車いす、杖、紙おむつ、ポータブルトイレなどの日常生活用具を中心とした高齢・介護系の福祉用具で対応)。さらに、より広い利用者①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿の不便さに対応が進んでいる (映像機器、家庭電化機器、点字付きアルコール缶飲料、ガス機器、住宅設備などの共用品で対応)。
 環境と不便さ対応 (共用品) 分野に共通するのは、「個人に重い影響・少人数の課題が存在」→「対策を講じて課題は軽減」→「個人の影響は小さいが大勢に影響する課題が顕在化」——という流れであり、その流れの下で開発・普及は進行している。

「大きな宿題」をいただく喜び
 評議員会、理事会はいつも議論百出



星川 安之

事務局 長 だより

☆…共用品推進機構の予算案と決算案は、評議員会の審議を経て、理事会で承認される。毎年、次年度事業計画・予算は3月に、前年度の事業報告・決算は6月にそれぞれ審議される。本年度は6月15日に評議員会、23日に理事会を開催し、平成21年度の事業報告・決算が承認された。事業報告・決算書は、3月に承認された22年度の事業計画書・予算書と共に、機構を所管する経済産業省に6月30日に提出し、無事に承認された。これにより、22年度の事業に正式に移ることになる。
 ☆…評議員会、理事会ではこうした事業・予算などの審議だけではなく、評議員、理事、監事からさまざまな事業のアイデアが提案される。それらの貴重な提案は、早いものはその年度内に、準備が必要な事業に関しては、次年度以降実施できるように準備を行っている。
 ☆…一昨年の理事会では、「子供た

ちに共用品を伝える事業を、例えば、国立科学博物館で実施できないだろうか?」という提案をいただいた。そこで早速、事務局から「例えば」と名前を出した先に問い合わせた。その結果、科博が毎年夏に開催している子供たちのワークショップ「サイエンススクエア」に参加してはどうか、とのお返事をいただき、参加が実現。本年も継続して、ワークショップを夏休みに行う予定にしている。
 ☆…本年度の評議員会、理事会でも多くの提案があった。「共用品」という言葉が出始めてから約20年。「さらなる普及に向けて新規事業を立ち上げる必要がある」という意見の一方で、「そうは言っても、まだ共用品の代表選手であるシャンプー容器のギザギザさえ知らない人も多い」という意見も上がった。
 「企業だけでなく、地方公共団体との連携も進めるべき」「伝えるべ

きは共用品そのものよりも、共用品という考え方ではないか」といった指摘や、「規格の国際化を通じて、日本から世界に発信してきているが、アジアにはまだまだ考え方も、情報も十分には届いていない」という意見もいただいた。共用品という名称そのものに関する議論も出た。「国際的に通じる名称にすべきではないか」という意見がある半面、「日本で作られた考え方なので、共用品という言葉はなくすべきではない」との意見も多く出された。
 「今までは消費財分野に力を入れてきたが、文化として定着させるためには、生産財やサービス分野での普及にも本格的に取り組む必要がある」、さらには「上位概念の標準化を作る時期に来ているのではないか?」との大きな課題も指摘された。
 いろいろな「宿題」に出会う喜びを、毎回、評議員会と理事会でもらっている。 (★)

共用品通信

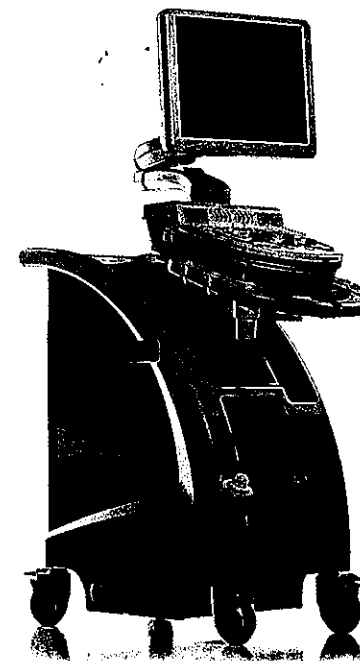
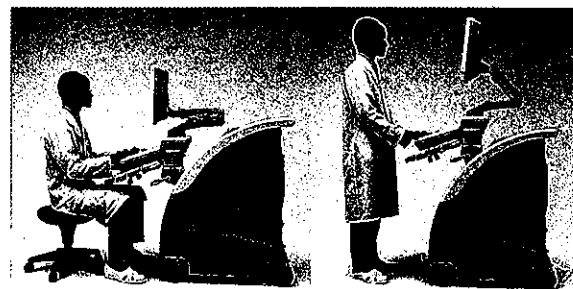
- 【理事会・評議員会】
- 第22回共用品推進機構評議員会 (6月15日)
- 第24回共用品推進機構理事会 (6月23日)
- 【JIS/ISO関連会議】
- ISO/TC173/SC7国内準備会議 (5月14日)
 星川、森川、金丸、松岡、水野が出席。
- 【講義・講演】
- 神奈川工科大学ロボット・メカトロニクス学科 (5月10日)
 星川が講義。
- 早稲田大学教育学部 (5月29日)
 1~4年生約50人を対象に、森川とタカラトミー・高橋玲子が「共用品授業」を行った。
- 「心拓塾」にて講演 (6月13日)
 麹町学園ANNEX館 (東京都千代田区) で開催されたヒーローズエデュテイメント(株)心拓塾事務局主催による「心拓塾」で、共用品をテーマに日本のものづくりの工夫について、星川が授業。「心拓塾」とは、小学生とその保護者を対象に、人間形成教育を通じて気づき、考え、行動する子どもを育む目的の塾。
- 慶應義塾大学経済学部中野研究室心理学教室 (6月30日)

- 「ものづくりのユニバーサルデザイン」をテーマに星川が講演。
- 【来訪・来所】
- 愛知県犬山市立犬山中学校 (6月1日)
 3年生5人に、星川が共用品について授業。
- 岐阜県大垣市立西中学校 (6月22日)
 3年生10人に、星川が共用品について授業。
- 神奈川工科大学創造工学部
 「共用品の現状と開発プロセスの留意点」をテーマに、神奈川工科大創造工学部4年生7人に星川が講義。
- 早稲田大学藤本浩志教授ゼミ生 (7月5日)
 人間科学部藤本研究室のゼミ生8人に星川が講義。

＜読者の皆様へのお願い＞
 「共用品通信 情報アラカルト」欄では新製品・新サービス、セミナー・講演・展示会、モニター募集など、個人・法人賛助会員の皆様からのお知らせも掲載致します。事務局「インクル編集担当宛」に、ニュースリリース、イベント案内などの情報をお寄せください。Eメールも歓迎です。



プレイラス
日立メディコ デジタル超音波診断装置「HI VISION Preirus」
 医師・技師にも、患者・被験者にも優しいデザインに



■日立メディコ「HI VISION Preirus (ハイビジョン・プレイラス)」
 ▼発売：2009年2月
 ▼サイズ：縦（高さ）1350×横450×奥行（長さ）900mm
 ▼重量：190kg
 ▼価格：都度見積もり
 ▼問い合わせ先：日立メディコ TEL：03-3526-8316
 ▼ホームページ：
<http://www.hitachi-medical.co.jp/>

可愛いデザインで不安感を緩和

日立製作所グループの医療機器メーカー、日立メディコが昨年2月に発売したデジタル超音波診断装置（エコー検査装置）「HI VISION Preirus」。無機質で冷たい医療機器のイメージを打ち破る斬新なデザインと、操作部へのユニバーサルデザインの採用で「医師・技師にも、患者・被験者にも優しい装置」に仕上げた。

デザイン面の最大の特徴は大きな曲線を取り入れた外観。動物のキャラクターのような親しみやすさを演出。妊産婦や子どもの恐怖

心、不安感を和らげることを意図した点などが高く評価され、昨年度のグッドデザイン賞金賞、キッズデザイン賞商品デザイン部門賞などを受賞した。

一方、操作性については、モニターと操作パネルを同時に移動させ、検査姿勢に対応して位置を自由に調整できるようにした。一般にエコー検査装置は病室、手術室などさまざまな場所で使われ、診断する部位によって患者の姿勢に合わせる必要があるが、従来製品の多くはモニターと操作パネルが固定されていたため、操作する医師・技師は時に無理な姿勢での診

断を余儀なくされていた。

これを可変式にしたことで、医師側は立ったり座ったり、自由な姿勢で診断でき、例えば、妊婦にお腹の赤ちゃんの動きを見せる時など、患者側も楽な姿勢でモニターを見ることができるといふ。

サイズの小型化も実現。特に横幅を45cmとコンパクトにした結果、病床の間にも持ち込みやすくなり、小規模クリニックなどでも使いやすくなった。また、薄暗い検査環境でも映える「スマイルイエロー」を白い本体部の縁取りに採用し、視認性と安心感を高めている。
 (高嶋健夫)

アクセシブルデザインの総合情報誌

インクル 第67号

2010（平成22）年7月25日発行
 "Incl." vol.11 no.67

©The Accessible Design Foundation of Japan
 (The Kyoyo-Hin Foundation), 2010

隔月刊、奇数月に発行
 一般頒価 1部1000円

(但し、個人・法人賛助会員については、購読料は年会費の中に含まれています)

※視覚に障害のある方など、墨字版がご利用できない方にはPDFファイルのCD-Rを提供しています。必要の方は、事務局までお申し出ください。

編集・発行 財団法人推進機構
 郵便番号 101-0064
 東京都千代田区猿樂町2-5-4 OGAビル2F
 電話：03-5280-0020
 ファクス：03-5280-2373
 Eメール：jimukyoku@kyoyohin.org
 ホームページURL：http://kyoyohin.org/

発行人 鴨志田厚子
 事務局 星川 安之
 森川 美和
 金丸 淳子
 水野由紀子
 高橋 裕子
 松岡 光一

小豆沢光代
 編集長 高嶋 健夫
 執筆・協力 後藤 芳一
 (五十音順) 凌 竜也
 竜口 隆三
 山本百合子

印刷・製本 ベスト・イーグル(株)
 サンパートナーズ(株)

本誌の全部または一部を視覚障害者やこのままの形では利用できない方々のために、非営利の目的で点訳、音訳、拡大複写することを承認いたします。その場合は、財団法人推進機構までご連絡ください。上記以外の目的で、無断で複写複製することは著作権者の権利侵害になります。